

国立ハンセン病資料館企画展

高山勝介作陶展

2011年
2月11日(金)
3月6日(日)

開館時間 午前9時半～午後4時半(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日、祝日の翌日(2月12日は休館)

会場 国立ハンセン病資料館1階ギャラリー

観覧料 無料

撮影 船元康子

国立ハンセン病資料館
National Hansen's Disease Museum

高山勝介作陶展

2011年

2月11日(金) - 3月6日(日)

本展覧会では高山勝介氏による陶芸作品をご紹介します。

高山氏は1926年に東京で生まれました。戦後ハンセン病を発症し、1946年に多磨全生園に入園します。入園後は様々な園内作業に従事し、結婚し、畑仕事を始め、園内にある宗教団体の秋津教会に入会するなど、療養所の中で生活を送ってきました。

しかし1979年頃ハンセン病の後遺症で視力が低下し失明しかけます。視力が低下して落ち込んでいた時、多磨全生園のリハビリテーションの一貫として設けられていた陶芸室に通う藤田四郎氏から「土をこねているだけでもいいから」と声をかけられました。それから30年以上、今に到るまで作陶活動を続けています。

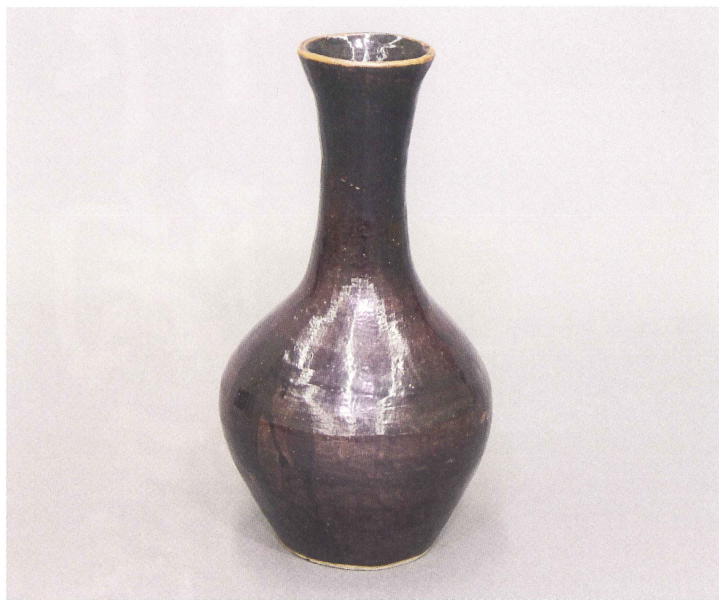
作陶が眼の直接的な治療になったわけではないでしょう。しかしそれが高山氏の気持ちを前向きにし、生きがいになっていったことは確かです。それは絶望や後遺症を乗り越えて療養所の中で生きる糧を見出したということでもありました。ハンセン病回復者が自身の後遺症と付き合いながら生活していかなければならないことを考えたとき、現在まで作陶活動を続けていること自体が貴重です。またその手から生み出された作品は高山氏の生きる姿そのものではないでしょうか。

本展覧会では高山氏が制作した作品を高山氏のあゆみを知ることができる写真とともにご紹介いたします。本展覧会に向けて高山氏が制作された新作も展示いたします。高山氏の姿を感じさせるこれらの作品をこの機会にぜひご覧ください。

※会期中一部展示替えを行います。



陶芸室に貼られていた写真 1980年前後



陶芸室で初めて作った作品 鶴首 1979年頃



炭化窯変壺 1998年

交通案内

- 西武池袋線清瀬駅南口から、久米川駅行きまたは 所沢駅東口行きバスで約10分
 - 西武新宿線久米川駅北口から、清瀬駅南口行きバスで約20分
- ※いずれも「ハンセン病資料館」で下車すぐ
- JR新秋津駅から徒歩約20分

国立ハンセン病資料館
National Hansen's Disease Museum

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981
URL <http://www.hansen-dis.jp>

